平成二十八年度　過去問チャレンジ　試験問題

国語

［注意事項］

一．試験時間は二十五分間です。

二．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

三．解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受講番号を記入しなさい。

四．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

五．問題冊子の余白等は自由に使って構いません。

六．試験終了後、問題の解説を行います。

七．模範解答を配付しますので、問題冊子とともに持ち帰りなさい。

東京都市大学付属中学校

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、句読点等は、一字として数えるものとします。

ミヒャエル・エンデの傑作『モモ』の主人公は「ぼんやりしている時間」を大切にする少女だった。ぼやーっとしている時間はそれこそ、むだそのものだ。［A］至上主義者はそういうだろう。むだな時間をいくら重ねてもなんの稼ぎにもならない、なんの稼ぎにもならないことに時間を a ツイヤスのは ①愚の骨頂ではないか。そういうに違いない。

でも、一見むだに見える時間のなかに、実は大切な役割をはたしているものがたくさんある。街をぶらつく。夕焼けをながめる。虫の声を聞く。雲を見る。星を仰ぐ。雑談をする。そういうむだに見える時間を重ねるところに、生活の厚みとか深みとか、そういうものが育ってくるのではないか。たくさんのむだな時間の集積こそが、実は、暮らしをゆたかにする潜在的な力をもっているのではないか。

エンデの作品は、時間泥棒の「灰色の紳士たち」が、人びとから「時間」を奪ってゆく物語だ。むだだと思われる時間を奪われた人びとの暮らしはどうなるか。それが『モモ』の主題だ。

モモは、どこからかふらりとその地にやってきた少女だった。土地の人たちの好意で、古い円形劇場跡の b イッカクに住まわせてもらうようになる。少女は、夜空をながめ、夜空の発する「荘厳なしずけさ」をひたすら聴くのが好きだった。

エンデはこう書いている。

「友だちがみんなうちに帰ってしまった晩、モモはよくひとりで長いあいだ、古い劇場の大きな石のすりばちの中にすわっていることがあります。頭の上は星をちりばめた空の丸天井です。こうしてモモは、荘厳なしずけさにひたすら聞きいるのです。

こうしてすわっていると、まるで星の世界の声を聞こうとしている大きな大きな耳たぶの底にいるようです。そして、ひそやかな、けれどもとても壮大な、えもいわれず心にしみいる音楽が聞こえてくるように思えるのです」

モモは「ひそやかな、けれどもとても壮大な音楽」を聴き、ぼんやりとした時間を過ごす。モモにとって、このぼんやりの時間は決してむだな時間ではない。宇宙の［B］のなかで時を過ごすというのは、モモがモモらしく生きるための、大切な時間だった。夜空をながめる時間をもつことで、モモは「荘厳なしずけさ」を感ずることができたし、なによりもそういう時間をもつことで、曇りない目をもつことができ、灰色の紳士たちのインチキを見破ることができた。

かなしいことに、私たち現代人は、夜空をしみじみと仰ぐ習性からしだいに遠ざかっている。利潤とか、効率とか、管理とか、豪華さとか、スピードとか、そういうものを生活の拠り所とする人びとが増え、夜空をながめるなんてむだなことだ、と思う人が増えてきた。

しかし、そのむだは本当にむだなことなのか。そういうむだがあるからこそ、生活はむしろ、ゆたかなものになっているのではないか。

十数年前になるが、教師だった亀村五郎（元・成蹊小校長）に教え子の作文を読ませてもらったことがある。そのなかに、小学四年の少女の作文があった。父とのひとときを書いたものだ。

「夜七時ごろ、私がまどのところに行ってみたら、コオロギが『リーリーコロコロ』とないていました。私は、ベランダに出て、コオロギのないているのをきいていました。そして、お父さんに『コオロギがないているよ』と言ったら、お父さんが『どれどれ』と言って、ベランダに出て来て、『本当だね。もう秋だね』と言って、ラジオを聞きに行きました……」

父と娘が、一緒になってコオロギの声を聞く。そういう情景は昨今ではそう多くは見られないだろう。

「本当だね。もう秋だね」という父親の言葉には、平凡だがその分、日常性があり、いい作文だと思った。

親が子と一緒に月を見る。北斗七星を見る。梅の花や沈丁花の香りをたのしむ。蜩の声を聞く。そういう時間は、むだといえばむだかもしれない。が、むだであるにしても、なんと「貴いむだ」だろうか。

亀村はそういう②「貴いむだ」の意味するものを知っている人だった。秋、金木犀の花が香るころになると、学校のそばの金木犀の大木のところに生徒たちを連れていった。

しばらく、その香りをたのしむ。③ただそれだけの行事だったが、多くの子はその香りに鮮烈な印象を受けたらしい。その香りを「あまーくて、まるでおいしいあめをしゃぶっているみたいなかおり」といっていた子は、中学生になっても、毎年、「先生、今年も金木犀が香る季節になりました」というはがきを送ってくれた。高校生になっても、大学生になっても、その教え子の「金木犀の便り」は続いた。亀村はいう。

「その子は社会人になったいまでも、金木犀の便りを送ってきます。最近は、その子と私の、どちらが出す『金木犀の便り』が早いか、競争みたいになっています」

多くの子は、金木犀の香る季節になると、その香りの奥にある小学校のころを思いだし、亀村先生と野を転げ回ったことを思いだし、風が送る金木犀の香りを感じ、嫁菜の紫色の花に宿る無数の露のことを思いだし、人が自然と共にある時の心のゆたかさを思いだす。教育というものの、そうあってもらいたい姿の一つではないか。

さて、エンデの物語の世界は、時間泥棒たちの組織的な襲撃にあい、街はひどい状態になっていた。

灰色の紳士たち、つまり時間泥棒たちは、人びとの心に忍びこんでは「むだな時間を節約し、その分を『時間貯蓄銀行』に預けなさい」と誘う。その説得の仕方があまりにも巧妙なので、人びとは節約した時間を灰色の紳士たちの銀行に預けるのに同意してしまう。銀行に預けられた「時間」はすべて、灰色の紳士たちが生存するために使われてしまう。いわば詐欺そのものなのだが、人びとは詐欺とは気づかず、せっせとむだな時間を削っては、その分、自分たちの生活を貧しくしてゆく。

それはちょうど、企業の一員となった会社員が、企業という怪物に時間を奪われ、家庭で過ごす時間を切り捨てることになり、日々の暮らしを犠牲にしてゆくありさまに似ている。

『モモ』の世界は、私たちの周辺ではすでにおなじみの風景なのだ。企業は「むだの排除」を利潤ツイキュウのための重要な目標にするが、④個々人の暮らしにとって「むだ」はそう悪いものじゃない。いや、本当をいえば、企業にとっても、一見むだにみえることが実は組織の懐を深くする結果を生むことがある。［C］だけに頼ることの危うさがそこにある。

一見むだにみえる時間のかなりの部分が、じつは大切な役割をはたしている。ところが、『モモ』の世界では、灰色の紳士たちに洗脳された人びとは、そのことがわからなくなっている。

「むだな時間を削れ」

というかけ声が人びとの合言葉になり、雑談も、遊びも、ペットとの付きあいも、みな、切り捨てるべきむだなものとして削られてゆく。

モモの物語のなかの犠牲者の多くは、かつてはのんびりとたのしげに暮らし、困った人の面倒を見るのが大好きな人たちだった。しかし灰色の人間が出没しはじめてからは、多くの人がせっせと時間をきりつめるようになり、日々の暮らしが、しだいに味気ない、せかせかしたものになってゆく。

たとえば、床屋のフージーは、それまで、一人の客に一時間もかけていたのに、二十分ですませるようになる。客との、楽しかったおしゃべりをやめる。インコを飼うのもやめる。寝る前に十五分、その日のことを省みる習慣も切り捨てた。

しかし切り捨てれば切り捨てるほど、彼の一日は短くなってゆく。あっというまに一週間がたち、ひと月がたち、一年がたってしまう。しかし、実際は、まるごと時間泥棒たちに使われてしまう。それでもフージーたちは、だまされていることに気づかず、せっせと働く。

時間泥棒にだまされた人びとはやがて、不機嫌な、くたびれた、おこりっぽい顔をし、とげとげしい目つきで暮らすようになる。

いま、この国に生きる私たちもまた、同じように⑤「不機嫌な、くたびれた、おこりっぽい顔をし、とげとげしい目つき」をするようになっているのではないか。

「時間をケチケチすることで、ほんとうはぜんぜんべつのなにかをケチケチしているということには、だれひとり気がついていないようでした。じぶんたちの生活が日ごとにまずしくなり、日ごとに画一的になり、日ごとに冷たくなっていることを、だれひとり認めようとはしませんでした」

エンデはそう描いている。

「人間が時間を節約すればするほど、生活はやせほそって、なくなってしまうのです」

エンデはモモの物語がいつの時代のどこの国の話だとも書いてはいない。しかし、⑥「むだいじめ」の現象は、近代技術文明の果実をむさぼる国々では、どこの国でも起こりうることであり、現に起こっている、ということが読者の胸に伝わってくる。

『モモ』の世界では、左官屋のニコラが工事に偽装があることを告白する。モルタルにたくさんの砂を入れ、仕事を早く安く仕上げようとしていたのだ。ニコラはいう。

「(おれたちは)まっとうな左官屋の良心に反するような仕事をやってるんだ。モルタルにやたらと砂を入れすぎるのさ、わかるかい？　これだと四、五年はもつけど、そのうちに咳をしただけでも落ちるようになっちゃうんだ。インチキ工事さ、卑劣きわまるインチキ工事さ！」

まっとうな職業人なら、職業人の誇りにかけて決してしないこと、良心に反すること、そういうインチキをやるようになったという告白だ。こういう類の「卑劣きわまる偽装」もまた、私たちの周辺でごくひんぱんに発生しているということを、エンデは見通しているかのようだ。マンションの偽装設計、食料品のd<u>サンチ偽装</u>、年金記録の偽装など、さまざまな偽装が発覚してきたこと、発覚しつづけていることを、私たちはいやというほど体験している。

時間泥棒たちのインチキを見破ったモモは、この化けものたちとたたかい、ついに人びとを救う。

モモが人びとを救うことができたのは、この少女が、ものごとの本質を見抜く力をもっていたからで、本質を見抜く力を身につけることができたのは、少女がつねに夜空をながめながら、ぼんやりした時間をたっぷりともっていたからではないか。

モモは、宇宙のe<u>イトナミ</u>を肌で感ずることで「ゆったりとした暮らしの形にこそ、私たちのまっとうな生きかたがある」ということを学んでいたのだと私は思う。

（辰濃和男『ぼんやりの時間』より）

問1　――線a～eのカタカナを漢字に直しなさい。ただし、送りがなが必要な場合はひらがなでつけなさい。

問2　空らん［A］にあてはまる最もふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　芸術　　イ　音楽　　ウ　快楽　　エ　運動　　オ　効率

問3　空らん［B］にあてはまる最もふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　混沌（こんとん）　　イ　静寂（せいじゃく）　　ウ　暗闇（くらやみ）　　エ　無限　　オ　神秘

問4　空らん［C］にあてはまる最もふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　紳士　　イ　規則　　ウ　銀行　　エ　数字　　オ　言葉

問5　――線①「愚の骨頂」とは、どのような意味ですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　平気なふりをすること　　イ　あとへは引けないこと　　ウ　全くくだらないこと

エ　ひどく劣（おと）っていること　　オ　なすがままになること

問6　――線②「『貴いむだ』の意味するもの」とありますが、「貴いむだ」には何があると筆者は考えていますか。これよりも前の部分から十五字でぬき出して答えなさい。

問7　――線④「個々人の暮らしにとって『むだ』はそう悪いものじゃない」とありますが、筆者が言いたいことを具体的に述べているのはどれですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　高速道路や新幹線での移動では、人は草花や木をくわしく見ることができないし、暮らしの周辺の細密な変化に気づくのは難しいが、どうしても時間の節約は必要である。

イ　夜にお父さんと一緒にベランダに出て、コオロギの鳴いている声を聞くという少女の作文は、ふだんは会話の少なかった父と娘の日常を、あますところなく表現している。

ウ　床屋のフージーは客とのおしゃべりやペットの飼育をやめ、いろいろなものを切り捨てていくが、時間泥棒にだまされているのを意識しつつ、せっせと働くことができた。

エ　家族とのとりとめのないだんらんの時間や、たとえばペットとのゆったりとした付きあいなどは、現代人にとってむだに思われても、心にゆとりをうむ大切なものである。

オ　高級マンションに住み、文明の最先端（さいせんたん）をいく機器類を使う現代人の生活にはむだがなく、インチキがなければ時間も有効に使え、とても便利に快適に暮らすことができる。

問8　――線⑤「『不機嫌な、くたびれた、おこりっぽい顔をし、とげとげしい目つき』をする」とは、暮らしがどのようになっていることを表していますか。文中から四十五字の部分をぬき出し、はじめとおわりのそれぞれ五字を答えなさい。

問9　次の文は、もともと文中にありました。どの文の後に入れるのがよいですか。その文のはじめとおわりのそれぞれ五字を答えなさい。

節約した厖大（ぼうだい）な時間は、灰色の男たちの「時間貯蓄銀行」というもっともらしい名の銀行に預けられ、利子とともにふくらんでゆくはずだった。

問10 ――線⑥「『むだいじめ』の現象は、近代技術文明の果実をむさぼる国々では、どこの国でも起こりうることであり、現に起こっている」とありますが、モモがそれに立ち向かうためには、何が必要でしたか。文中から十字以内で二つ、ぬき出して答えなさい。

問11 この文章に題名をつけるとしたら何がいいですか。最もふさわしい題名を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア モモと灰色の紳士たち　イ モモの暮らしと生きかた　ウ モモと時間泥棒たち

エ「むだな時間」はむだか　オ まっとうな人の生きかた

問12 ――線③「ただそれだけの行事」から、生徒たちは大切なことを教えられましたが、それは、どのようなことですか。生徒たちが具体的に経験したことがわかるようにして、六十字以内で説明しなさい。ただし、必ず「むだ」ということばを用いることとします。

【二】次の各文の――線にあたる漢字を、漢和辞典の部首さくいんで調べようと思います。何部の何画で引けばよいですか。例にならって答えなさい。

例　毎日のドクショが私の習慣だ。　　答え　ごんべん・7

① 体育館のホキョウ工事を行った。　② 性格がタイショウテキな二人だ。

③ 漢字学習の大切さをツウカンする。　④ タイレツを組んで砂ばくを旅する。

⑤ 雨のため運動会がジュンエンになる。

平成二十八年度

解答用紙

東京都市大学付属中学校

過去問チャレンジ

【一】

問1
a
b
c
d
e

問2

問3

問4

問5

問6

問7

問8

問9

問10

問11

問12

【二】

①

②

③

④

⑤

受講番号

得　　点

平成二十八年度

解答用紙

東京都市大学付属中学校

過去問チャレンジ

45

【一】

問1

a 費やす

b 一角

c 追求

d 産地

e 営み

問2 オ

問3 イ

問4 エ

問5 ウ

問6 暮らしをゆたかにする潜在的な力

問7 エ

問8 じぶんたち～ていること

問9 あっという～てしまう。

問10 本質を見抜く力。ぼんやりした時間

問11 エ

問12 金木犀の香りをたのしむという、いっけんむだとも思えることから自然と共にある時の心のゆたかさということ。

5

【二】

① ころもへん

② れんが(れっか)

③ やまいだれ

④ こざとへん

⑤ えんにょう

5	7
	9
	7
	9

配点 【一】問1 2点×5 問2・問3・問4・問5 各3点 問6・問7 各3点 問8・問9 各3点(完答) 問10 1点×2 問11 3点 問12 6点
【二】1点(部首名と画数との完全解答)×5

受講番号

得点

《平成23年度第3回より》